利益剰余金

問題集p.79： **このページはよく質問されます。また、頻出です。**

利益剰余金

会社が獲得した利益の留保額

(3)利益剰余金 (右の項目の合計)	1. 利益準備金	
	2. その他利益剰余金 (右の項目の合計)	①任意積立金 (新築積立金や別途積立金)
		②繰越利益剰余金 (当期純利益はここに含まれる)

利益準備金

会社法によって、一定金額を計上しなければならない準備金。会社法では、「**資本準備金と利益準備金を合わせて準備金**という。**その他利益剰余金**から配当する場合には、**配当額の10分の1を準備金の額が資本金の4分の1に達するまで、その他利益剰余金から利益準備金**に計上する。」とある。

利益剰余金と資本剰余金の違いは？

利益剰余金は、会社が得た利益が財源になっていて、

資本剰余金は、会社が株式を発行して得た資金を財源としている。

→会計原則「**資本取引・損益取引区分の原則**」(教科書p.16参照)より

例題：p.81 20-5 **超重要！**

次のように剰余金の配当を行った場合、会社法の規定によって計上しなければならない準備金の名称とその計上金額を答えなさい。

(1) 繰越利益剰余金から¥1,800,000の配当を行うことを決議した。そのときの資本金の額は、¥60,000,000 **資本準備金の額は¥14,000,000 利益準備金の額は¥850,000**であった。

(2) その他資本剰余金から¥1,800,000の配当を行うことを決議した。そのときの資本金の額は、¥60,000,000 **資本準備金の額は¥10,000,000 利益準備金の額は¥500,000**であった。

似ているけど、違うところに下線・赤字を引きました。

まず、下線の剰余金の種類によって、計上する準備金の勘定が決まります。なので、

(1)は利益準備金で、(2)は資本準備金となります。

そして、算出金額の計算ですオーソドックスなのは、**(2)の方です。こちらからやります。**

資本金の金額は、¥60,000,000、その4分の1は¥15,000,000ですよ。

準備金の金額を確認します。¥10,000,000 + ¥500,000で¥10,500,000

資本金の4分の1である¥15,000,000には、準備金が¥4,500,000(15,000,000-10,500,000)足りていません。¥1,800,000配当するときにはその10分の1を準備金に計上しなければならないので、¥180,000を資本剰余金に計上します。ちなみに計上後、準備金を計算すると、¥10,500,000 + ¥180,000 = ¥10,680,000なので、まだ4分の1に達していません。

例題：p.81 20-5 **超重要！**

次のように剰余金の配当を行った場合、会社法の規定によって計上しなければならない準備金の名称とその計上金額を答えなさい。

(1) 繰越利益剰余金から¥1,800,000の配当を行うことを決議した。そのときの資本金の額は、¥60,000,000 **資本準備金の額は¥14,000,000 利益準備金の額は¥850,000**であった。

(2) その他資本剰余金から¥1,800,000の配当を行うことを決議した。そのときの資本金の額は、¥60,000,000 **資本準備金の額は¥10,000,000 利益準備金の額は¥500,000**であった。

さて、**問題なのは(1)の方**です。

資本金の金額は、¥60,000,000、その4分の1は¥15,000,000ですよ。

準備金の金額を確認します。¥14,000,000 + ¥850,000 で ¥14,850,000

資本金の4分の1である¥15,000,000には、準備金が¥150,000 (15,000,000 - 14,850,000) 足りていません。

¥1,800,000配当するときにはその10分の1を準備金に計上しなければならないので、¥180,000を利益剰余金に計上しようと考えますが、準備金はあと¥150,000計上すれば、資本金の4分の1を満たします。

この場合は、金額の少ない、¥150,000を利益剰余金に計上すれば良いのです！

**「資本金の4分の1」 - 「準備金合計」と、
「配当しようとする金額の10分の1」を比較して、
金額の少ない方を準備金に計上すれば良いのです。**

任意積立金

その他利益剰余金の一部(つまりはほとんどが繰越利益剰余金)を任意に積み立てたもの。

- ①特定の目的を持つもの：新築積立金・減債積立金・配当平均積立金
- ② 〃 持たないもの：別途積立金

※任意積立金を取り崩すとき、一度、「繰越利益剰余金」勘定に振り替える。

繰越利益剰余金

- ・ **当期純利益が計上されたとき、または任意積立金の取り崩しを行ったときに増加**する。
  - ・ 貸方が「+」の勘定なので、当期純利益を計上すると、
損益／繰越利益剰余金
- となり、繰越利益剰余金勘定が貸方残高なら利益がある状態を指す。
- ・ 損失がある状態なら、借方残高となる。貸借対照表上ではマイナス表記となる。